

事例紹介

株式会社ゴールドウイン アパレル商品管理のための EPC/RFID活用事例



株式会社ゴールドウイン（以下、ゴールドウイン）では、自社が取り扱う全ブランドの商品にEPCである**SGTIN**を書き込んだUHF帯RFIDタグを製造段階で取り付けている（※）、店舗や倉庫で商品管理にRFIDを活用することで、業務効率化を実現している。（※一部の外部仕入品（雑貨、食品等）は店頭でタグを貼付している。）

【店舗でのEPC/RFID活用】

ゴールドウインでは2019年から店頭でのRFID活用を始め、現在はRFIDを棚卸業務および商品探索に活用している。

• 棚卸業務

年2回実施している棚卸業務は、RFID導入前は閉店後夜間に外部委託して4時間以上かけて作業していたところ、導入後は半分以下の2時間程度にまで省力化でき、日中の店舗スタッフによる作業が可能になった。また、省力化により月に1回の仮棚卸ができるようになった。

• 商品探索

THE NORTH FACE kids原宿とHELLY HANSEN原宿の2店舗に取材したところ、いずれの店長も商品探索が容易になったことに特にメリットを感じると語った。自社店舗が集中する原宿では複数店舗で一緒に商品を保管する拠点も有する。そういった共同保管場所でもRFIDを使えば迅速に対象の商品を見つけることができる。

株式会社ゴールドウイン

1950年に創業した自社直営店も展開するスポーツアパレルメーカー。オリジナルブランドGoldwinをはじめ、THE NORTH FACE、HELLY HANSEN、Speedoなどグローバルブランドの日本国内での製品企画から販売までを手掛け、アスリートからスポーツファンまで幅広い顧客層を持つ。

* EPC (Electronic Product Code): RFIDタグにGS1識別コードを格納するための標準フォーマット。

* SGTIN (Serialised Global Trade Item Number): GS1により標準化された商品識別コードであるGTINにシリアル番号を組み合わせた識別子。シリアル番号により、同じ商品でも個品ごとの識別が可能となる。

富山倉庫でのRFID検品の様子

ゴールドウインでRFIDを導入した当初は店舗の管理業務効率化が主な目的であったが、製造段階でせっかく取り付けタグを物流でも活用したいと考え、富山倉庫から活用を開始した。

2023年からは店舗向け出荷業務にRFIDを利用しており、関東倉庫でのRFID活用も開始している。



【倉庫でのEPC/RFID活用】

物流拠点では商品の出荷先ごとの仕分けおよび検品業務にRFIDを活用。最初にRFIDを導入した富山倉庫では、下記の読取機器を目的に応じて使い分け、業務効率化を実現している。

・ PAS (自動ソーター)

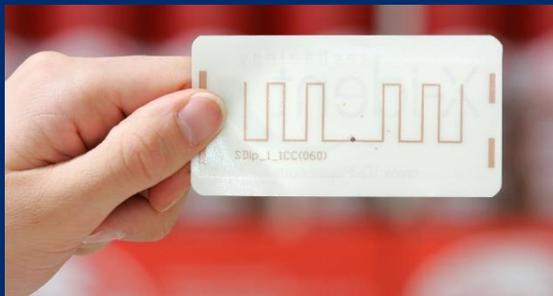
商品のRFIDタグを読み取って配送先店舗別に仕分けを行う。1時間で2,500~3,000点の処理能力がある。バーコードを用いたソーターを利用していた際はJANシンボルを読み取り位置に面するように都度表に出して投入しなくてはならなかったが、今はその作業が不要になり、投入作業の効率が格段に上がった。

・ RFID検品

トンネル型のリーダーで、段ボール箱の中の商品のタグを一気に読み取り、出荷予定データと照合して検品を行う。読み取りの際は対象の箱が中に入った状態で遮蔽し、他のタグを読み取らないようにしている。1時間で300箱の検品能力がある。

【GS1標準活用のメリット】

ゴールドウインではRFIDタグにGS1標準のSGTINを書き込んでいるため、納品先の他社店舗でもRFIDタグを読み取って活用することも可能だ。製造段階で付けたタグをサプライチェーンの関係者全体が有効利用でき、RFIDから得られる個品単位のデータをトレーサビリティの実現にも活用できる、そんな未来への期待が高まる。



EPC/RFID入門講座のご案内

初心者向けにRFID（電子タグ）の特徴や国内外の活用事例、EPCの活用について解説します。

詳細はこちらから

プログラム

- ・ RFIDとは
- ・ RFID活用事例
- ・ EPC/RFIDとは 等



GS1 Japan

ソリューション第1部 RFID・デジタル化推進グループ

epcdesk@gs1jp.org

<https://www.gs1jp.org>